

作家たちが生きたあのまち、あの時代へ



発行：一般財団法人 本州四国連絡高速道路協会
<http://honsikyokai.main.jp/>

せとうち観光再発見!

検索



クルマでめぐる感動の旅物語

【表紙写真】※左上から
早坂暁／伊予北条(愛媛県)、海野十三／徳島(徳島県)、坪田譲治／岡山(岡山県)、鈴木三重吉／広島(広島県)、柴田錬三郎／備前(岡山県)、井伏鱒二／福山(広島県)、久坂葉子／神戸(兵庫県)、
寺田寅彦／高知(高知県)、横山美智子／尾道(広島県)、菊池寛／高松(香川県)、W・モラエス／徳島(徳島県)、やなせたかし／香美・南国(高知県) ※作家顔写真等の提供者は各作家ページ下欄に記載。
2020.03

その作家との出会いが、旅のはじまりだった。

旅のはじめに

何気なく手に取った一冊。

ページを繰るうちに、その作家が生まれたまちと

時代を訪ねてみたくなった。

彼はそこで何を感じ、何を伝えたかったのだろう。

瀬戸内には魅力あふれる作家たちが数多くいる。

昭和、大正、明治へと時を辿ってクルマを走らせよう。

懐かしいふるさとの面影に触れながら、

新しい感動の1ページが心に刻まれることだろう。



寺田寅彦が青春時代を過ごした追手筋から高知城を望む（高知県）



瀬戸内の作家たちを訪ねて

目次	
きらめく流れ星のように 異国のふるさとから	久坂葉子と神戸【兵庫県】 4
芥川賞、直木賞を創った男 遍路道と望郷のまちで	W・モラエスと徳島【徳島県】 6
懐かし、美味し。ソウルフード 愛と勇気が育ったまち	菊池寛と高松【香川県】 8
天災は忘れたころに さよならだけが人生だ	早坂暁と伊予北条【愛媛県】 10
巻き起こった剣豪ブーム 謎多き日本のSFの父	やなせたかしと香美・南国【高知県】 12
児童文学の作家たち	寺田寅彦と高知【高知県】 14
未来に羽ばたいた『赤い鳥』	井伏鱒二と福山【広島県】 16
ふるさとに愛があふれる	柴田錬三郎と備前【岡山県】 18
かなえられた夢物語	海野十三と徳島【徳島県】 20
つぎに訪ねたい瀬戸内の文学館ガイド	鈴木三重吉と広島【広島県】 22
ドライブマップ	坪田譲治と岡山【岡山県】 23
	横山美智子と尾道【広島県】 24
	25
	26



久坂 葉子 (くさか ようこ)

昭和6(1931)年～昭和27(1952)年

本名は川崎澄子。「ドミノのお告げ」が芥川賞候補になる。作家として将来を嘱望されたが「幾度目かの最期」を残し、自ら命を絶つ。

神戸文学館



神戸最古の木造教会建築の元関西学院チャペルを活用し、神戸ゆかりの作家たちの文学資料や愛用品などを紹介する。

神戸市灘区王子町3-1-2
☎078-882-2028、10:00～18:00(土日祝9:00～17:00) 水休

「神戸のまちとの関わりを紹介しています」

多くの作家が活動した神戸。それぞれの作家たちが生きた時代の写真をまじえて解説しています。



館長 水内 眞 さん

読みたい一冊

伝説の女流作家、久坂葉子の代表作である表題作をはじめ、死の寸前に書き上げた「幾度目かの最期」などを収録。勉誠出版。



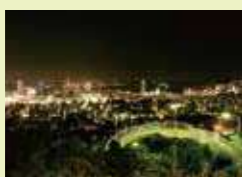
ひと休みトーク Tabi no Bookmark

みなと神戸の
ロマンティックビューを楽しもう。



神戸のパノラマビューを楽しみたいのなら、トアロードからほど近い奥再度ドライブウェイに向かうのがオススメ。ピーナスブリッジの展望台からは、昼間なら眼下に美しい港と市街地が広がる。1000万ドルといわれる夜景もロマンティックだ。

ピーナスブリッジ
神戸市中央区
諏訪山町
P有



新旧のビルが美しく調和する
旧居留地はおしゃれな神戸の
代表エリア。

トアロードを南に下ったところに旧居留地がある。ヨーロッパの近代都市計画をもとに形成された美しいまち並みは、大丸神戸店などを中心に大人の女性たちを魅了し続けている。



©一般財団法人神戸観光局

市内唯一の日本庭園、
相楽園。

重要文化財の船屋形や異人館の旧ハッサム邸がある。久坂はこの近くで生まれた。



久坂がよく通った
神戸回教寺院。

昭和10(1935)年に創建された日本初のイスラム寺院。現在の「神戸ムスリムモスク」。久坂はトルコ人の音楽家から音楽理論を学ぶため、ここへ通っていた。無料で見学できる。

神戸ムスリムモスク
神戸市中央区中山手通2-25-14
☎078-231-6060
10:00～17:00



三宮から元町にかけ、まちを歩きながら、久坂は何を感じたのだろう。



上から三宮センター街、中が元町商店街、下が三宮から元町のJR線の高架下商店街。それぞれ個性が異なる商店街だ。

川崎家の菩提寺
「徳光院」に久坂は眠る。



名勝地の布引山を借景に、明治39(1906)年に開設された臨済宗の寺院で、川崎家の菩提寺。兵庫県最古の多宝塔を持つ。大きな観音像の台座、半円形のドームの下に久坂も家族とともに眠っている。最寄りの駐車場に車を止め、散策しながら訪ねよう。

徳光院
神戸市中央区誓合町布引山2-3 ☎078-221-5400

元町の喫茶「神戸エビアンコーヒー」。 レトロなお茶時間でひと息。

久坂も三宮や元町の喫茶店で仲間と語り合い、アルバイトでウェイトレスをやっていたエピソードもある。そんな時代の雰囲気味わえるのが昭和27(1952)年に開店したこの店だ。元町商店街の入り口付近。アルコールランプを使ったサイフォン式は当時のまま。懐かしく心地いい時間が流れる。



神戸市中央区元町通1-7-2
☎078-331-3265
8:30～18:30(日祝は9:00～18:00) 水休

かつて神戸に「幻の作家」と呼ばれた若き久坂がいた。

気とともに、古き良き時代の面影が色濃く残っている。そうした神戸に昭和6(1931)年、ひとりの女流作家が川崎重工業の前身川崎造船の創業者である川崎重工業で生まれた。久坂葉子だ。名家の子女、何不自由ない環境、だからこそその反発からか久坂は学業でも私生活でも自由で奔放な振る舞いを見せる。学校を中退し

てまで進んだピアノの道も早々とやめ、つぎは文学を志す。当時、阪急「六甲」駅近くに住んでいた作家の島尾敏雄を訪ね、その後島尾とともに同人誌『V I K I N G』を立ち上げた富士正晴に師事する。19歳のときの作品『ドミノのお告げ』が芥川賞の候補に挙がり、それ以来小説や戯曲を次々に発表している。あどけなさが残る夢見る少女が見せる、大人



かつて、坂道の北端に外国資本の「トアホテル(日本表記で東亜)」があったとされる。



いま「神戸北野ホテル」が建つ
場所に久坂の家があった。

神戸の山手から旧居留地を結ぶならかな約1キロの坂道、トアロード。相楽園近くにあった生家がここに移った。現在は「世界一の朝食」として話題を呼んだ神戸北野ホテルが建っている。

神戸北野ホテル
神戸市中央区山本通3-3-20 ☎078-271-3711



トアロードを北に向かえば
異人館のまち北野町。

北野町には、明治時代から外国人たちの居住地としてさまざまな洋風邸宅が建てられた。地域内には約40棟の異人館が残り、山本通は別名「異人館通り」と呼ばれている。

びた仕草や文章。強さともろさ、大胆さと繊細さ。ひとことでは語れない魅力を持った作家だった。かつて家がなかったトアロード辺りから神戸の中心である三宮や元町を歩こう。このまちで久坂は何を見て、何を感じていたのだろう。絵画、俳句、短歌にも才能を見せた久坂が作品に追い求めた純粋な思いを、戦後の混乱が許さなかったのかも知れない。芥川賞候補となり、将来を期待されながら、そのわずか2年後の大晦日に21歳の若さで自ら人生に終止符を打った久坂は「幻の作家」とも呼ばれている。六甲の山々に見守られながら、異国文化を受け継ぎ花開いた港まち神戸。ここで、久坂は一瞬のきらめきを放ち、流れ星のように飛び去っていった。

きらめく流れ星のように



くさか ようこ
久坂葉子と神戸

【兵庫県】

異国のふるさとから

遠い故郷を思いながら、最愛の人たちへの追慕が徳島に刻まれた。

「眉の如雲居に見ゆる阿波の山…」万葉集にも詠まれる徳島の母なる山、眉山。いまから一世紀近く前にその山裾の地でひっそりと75年の人生を終えたひとりの外国人がいる。ポルトガルリスボン生まれ、海軍士官を経て、外交官となり、神戸で総領事を務めたヴェンセスラウ・デ・モラエスだ。

明治32（1899）年、日本初のポルトガル領事館の開設を機に副領事として神戸に赴任。その功績は、神戸市中心部のフラワーロードに面した東遊園地にあるモラエス像としていまも讃えられている。モラエスほど教養な運命を辿った人物も稀だ。神戸時代に出会った芸者のおヨネ（福本ヨネ）と結婚し、おヨネの故郷だった徳島を訪れる。明治45（1912）年におヨネが亡くなったのをきっかけに、翌年職を辞して引いたために徳島に移住。ひとり残されたモ



神戸の東遊園地に建つモラエス像。

ラエスの世話をするおヨネの姪コハル（斎藤コハル）と暮らすことになるが、そのコハルにも先立たれてしまう。

それまでもモラエスは長年にわたり、母国の新聞に日本の政治や外交、さらに文化までを紹介している。同時代、ギリシャから島根県に渡り執筆活動したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）とよく比べられるが、海外に日本文化を発信した功績は、後世高い評価を受けている。愛するふたりの女性との悲しい別れも『おヨネとコハル』『徳島の盆踊り』など多数の著作になっている。

眉山の麓にある阿波おどり会館を起点に、モラエスのゆかりの地を訪ねよう。クルマをとめ、眉山ロープウェイで空中散歩を楽しみ、徳島市内を一望するのもいい。会館に隣接する寺町界隈には墓所があり、かつての住居跡が残る「モラエス通り」と呼ばれるエリアもある。ひとり住まいの当時のモラエスにとつて、徳島での暮らしはけっして楽ではなかっただろう。顎ひげを伸ばし、180センチ以上の長身は、色メガネで見られたことだろう。母国ポルトガルから遥か彼方、異国のふるさとになった地を散策しながら「孤愁（サウダーデ）の人」といわれたモラエスの思いを辿りたい。



会館前にはモニュメントが建つ。

阿波おどり会館を起点に散策するのがいい。



眉山山頂には遠くポルトガルを望むモラエスがいる。

眉山山頂にはクルマでも行けるが、ロープウェイで上る方法がある。ゴンドラから絶景を楽しみながら片道約6分の空のミニトリップだ。山頂には遊歩道が整備され、ハイキング気分を楽しめる。故郷ポルトガルの方角を眺めるモラエス像が建っている。

眉山ロープウェイ山麓駅(阿波おどり会館内)
徳島市新町橋2-20 ☎088-652-3617
ロープウェイ運行/9:00~21:00
(※11月~3月は17:30まで) ※延長運行有



潮音寺にはモラエスを挟んでおヨネとコハルが仲良く並ぶ。

阿波おどり会館のすぐ北側、寺町の入り口に当たる潮音寺に墓がある。中央がモラエス、右がおヨネ、左がコハル。徳島で過ごしたひと時の幸せが偲ばれる。

潮音寺 徳島市西山手町1-1 ☎088-656-1835



静かな住宅街にある「モラエス通り」を歩く。



阿波おどり会館南側の伊賀町一帯は、かつてモラエスが住んだ長屋があり、「モラエス通り」と呼ばれる。住宅街片隅に旧居跡を示す銘板や近隣の新町小学校内にモラエスの胸像が建つ。モラエスも散策に訪れたであろう瑞巖寺もある。時間にゆとりがあるならぶらりと歩きたい。

モラエス旧居跡 徳島市伊賀町3



モラエスが愛したふたつの徳島銘菓は昔ながらの懐かしさ。

日の出楼の「和布羊羹」



創業は嘉永5（1852）年の老舗。モラエスは「和布羊羹」を好み、おヨネとコハルの命日には「紅羊羹」を墓前に供えたとか。ポルトガルワインを使った「赤ワイン羊羹」もある。徳島市二軒屋町1-8 ☎088-622-6775、9:00~18:00（日は13:00まで）、水休、P有

和田乃屋本店の「滝のやき餅」



阿波徳島藩の御用菓子として400年の伝統を受け継ぐ。モラエスが散歩の途中に立ち寄り、食べたという「滝のやき餅」は、小豆を名水の錦竜水で炊き上げた餡を使い、焼き立てを食べられる。眉山山頂に向かう大滝山登山口にある。



庭にはモラエスが植えたという「黄花垂麻（キバナアマ）」の花が11月から3月初旬まで咲く。



徳島市眉山町大滝山5-3 ☎088-652-8414、10:00~17:00、木休

静けさと名水に手を合わす春日神社。



眉山を背に奈良の春日大社の分社として創建された。境内には眉山湧き水のひとつである「春日水」がある。寺町の中でも風格ある佇まいを誇る。モラエスが辿った道にある。

春日神社 徳島市眉山町大滝山1 ☎088-622-5733



ヴェンセスラウ・デ・モラエス

安政元(1854)年~昭和4(1929)年

ポルトガルのリスボン生まれ。外交官、文筆家。日本文化を海外に紹介する。神戸で総領事を務めた後、妻おヨネの故郷徳島に渡り生涯を送る。

徳島県立文学書道館



モラエスはじめ、賀川豊彦、海野十三など徳島県ゆかりの文学者と名筆たちを紹介している。瀬戸内寂聴記念室も設置。

徳島市中前川町2-22-1 ☎088-625-7485 9:30~17:00、月休、P有

「素晴らしい表現力を持つモラエス」

モラエスの作品には豊かな感受性による繊細な表現があります。ぜひ、一冊手に取ってください。

館長 富永 正志 さん



読みたい一冊

日本文学、日本人の観察記、徳島の風物や文化考、身近の雑記までを取めた日本随想記。(公財)徳島県文化振興財団・県立文学書道館発行。



モラエス展示場(徳島市中央公民館3F)



徳島での足跡とともに作品、関連資料を展示するほか、遺品のレプリカで仕事場を再現。徳島市徳島町城内2-1 ☎088-621-5232 (徳島市観光課)、10:00~16:00、火休、P有

ひと休みトーク

Tabi no Bookmark

日本語になったポルトガル語。

鉄砲の伝来、キリスト教の布教など、ポルトガルと古くから交流があった日本には、ポルトガル語を起源にする日本語が数多い。

有名どころでは

- 天ぷら(tempero=調味料・味付け)
- カステラ(castelo=城)
- バッテリー(bateira=小舟)
- メリヤス(meias=靴下)
- かるた(carda=カード・手紙)

ほかにもブランコ、カボチャ、おんぶ、ピンキリもポルトガル語が語源だ。

W・モラエスと徳島

[徳島県]

菊池寛 (きくち かん)

明治21(1888)年~昭和23(1948)年

本名は菊池寛(ひろし)。小説家、劇作家以外にも多彩な顔を持つ。代表作は『父帰る』『恩讐の彼方に』『真珠夫人』。文藝春秋社を創設。

菊池寛記念館



郷土の偉大な文化人、菊池寛の生涯を紹介するメモリアルミュージアム。生前写真や直筆原稿、数多くの遺品を展示。文学遺産として芥川賞、直木賞、菊池寛賞の全貌を展示と映像で紹介する。

高松市昭和町1-2-20サンクリスタル高松3F
☎087-861-4502. 9:00~17:00、月休、P有

「ヒューマニストとしての菊池寛に出会えます」

映像展示や再現された書齋などもあり、菊池寛の魅力と生涯をゆっくりと見学いただけます。

学芸員 榎田 瑤子さん

読みたい一冊

生い立ちから青春時代、作家活動、晩年まで。代表作の『父帰る』『真珠夫人』と併せて読めば、より人間的な魅力がわかる。菊池寛記念館。



同郷を見極めるために謎をかけた。

東京で成功を取めた菊池のもとへは、同郷を名乗り金の無心が数多くあった。そのため本物かどうかを確かめるため、珍しい北向き天神だった「華下天満宮」の向きを聞いたという。目印はブロンズの牛。路地に入れば小さな社がある。

華下天満宮 高松市百間町3-8



日本一長いアーケード。

個性が異なる8つの商店街をアーケードで結び、東西南北に広がる高松中央商店街は総距離2.7kmにもなり、日本一長いアーケードといわれる。菊池寛ゆかりの華下天満宮は片原町西部商店街の中にある。

一步一景の名庭を歩こう。

栗林公園は、江戸時代初期の回遊式大名庭園で、緑深い紫雲山を背景にして多彩な池と築山が美しい国の特別名勝。歩くほど異なる表情に出会える。



栗林公園
高松市栗林町1-20-16 ☎087-833-7411
日の出から日没まで、P有

日本三大水城で、鯛のエサやりを体験。

瀬戸内海から堀に水を引いた水城で、日本三大水城に数えられる高松城を中心に、玉藻公園として整備され、内濠遊覧も楽しみ、鯛のエサやりもできる。



玉藻公園
高松市玉藻町2-1 ☎087-851-1521
日の出から日没まで、P有



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

新鋭作家に扉を開いた芥川賞と直木賞。

菊池の多くの功績の中で文学ファン最大の関心事は『文藝春秋』が発表する芥川賞と直木賞だろう。昭和10(1935)年の第1回芥川賞は石川達三『蒼氓』、直木賞は川口松太郎『鶴八鶴次郎』『風流深川唄』、第162回になる令和元(2019)年下期の芥川賞は古川真人の『背高泡立草』、直木賞は川越宗一の『熱源』が受賞している。

やっぱり“うどん県”。 お腹が減ったら古民家で楽しむ 讃岐うどんがオススメ。

地元で伝わる昔ながらの手法の讃岐うどんの名店。ざいごとは田舎を意味する「在郷(ざいごう)」が訛ったもので、江戸時代の藁葺民家を使った店内で味わう釜あげうどんは絶品。大きなたらいで出てくる家族うどんが名物。みんなでつるつるといこう。四国村の入口にある。



ざいごううどん 本家わら家
高松市屋島中町91
☎087-843-3115.
10:00~19:00
(*季節により異なる)、P有



源平ゆかりの屋島山麓の野外民家博物館。徳島祖谷溪の「かずら橋」を再現するほか「小豆島農村歌舞伎舞台」や「南予の茶堂」など、四国各地から30棟以上の建造物を移築して、四季折々の美しい自然の中で昔の暮らしぶりを紹介している。

四国民家博物館「四国村」
高松市屋島中町91 ☎087-843-3111. 8:30~18:00
(11月~3月は17:30まで)、P有

先人の知恵が詰まった
四国の暮らしを散策しながら体験。



生家があった場所の前を走る「菊池寛通り」。「父帰る」の像がある。

小説家、劇作家、実業家、政治家。菊池の才能はこのまちで目覚めた。本好きの人間にとつての何よりの楽しみは、最良の作家の新刊を手にする事、そして新しい才能あふれる作家に出会うことだろう。明治21(1888)年に高松で生まれた菊池寛が、新人作家の登竜門として設立した芥川賞と直木賞は、現代日本文学の発展に大きな功績を残した。菊池家は元々高松藩の儒学者の家系だったが没落。少年時代の菊池は教科書すら買えず、友だちから借り写して使うほど貧しかったというが、記憶力は抜群、英語も大得意、手抜きしながらも学業はいつもトップだった。また、文芸雑誌を愛読し、文学への興味を湧かせ、高松中学校(現香川県立高松高等学校)時代には、地元図書館で借りた2万冊を2年間で読破したエピソードもある。後に進学した第一高等学校(現東京大学)から京都帝国大学文学部に移り、戯曲を発表するようになる。そのころ、芥川龍之介や夏目漱石らと交流する。卒業後は新聞記者の傍ら、大正6

(1917)年に『父帰る』を発表。大正9(1920)年には新聞連載で好評を博した『真珠夫人』につなげている。常々から、作家たちが小説で食べていけるようにと考えていた菊池は、人気作家となったことで、精力的な動きを見せる。大正12(1923)年、若い作家のための文芸雑誌を自費で発刊させる。それが『文藝春秋』だ。創刊号3000部はたちまち売れ、刊を重ねるごとに部数を伸ばしていった。昭和10(1935)年には、2月、8月の書籍の売上げ閑散期に合わせて、芥川賞と直木賞を設立している。これには文藝春秋社の社長としての才覚も見て取れる。その後は、政界に進出したり、国の要請で映画会社の大映の社長にも就いている。生家があった「菊池寛通り」には、家族の愛憎を描き菊池を世に出した『父帰る』の像が建つ。逆境の少年時代を乗り越えて、時代を見るリアリスト、次代を創るヒューマニストになった菊池の才能は、このまちで目覚めた。

市民の憩いの公園に碑や銅像が建つ。

市の中心地に位置する高松市立中央公園。その西口の傍らには『父帰る』の文学碑と菊池寛顕彰碑が並び、道路を隔てた向かい辺りに、菊池の生家があった。公園の東に回れば菊池寛像が建っている。

高松市立中央公園 高松市番町1-11



芥川賞、直木賞を創った男



菊池寛と高松

きくち かん

[香川県]

遍路道と望郷のまちで

あたたかい人間ドラマの
原点はここにあった。

お遍路を迎える四国では昔から人間味豊かな「おせっかい」文化がある。とりわけ瀬戸内の温暖な気候とのどかな自然に育まれた伊予地方の人々は、どこかのんびりとした気質で、人情に厚いといわれている。

『花へんろ』『夢千代日記』をはじめ

め、数々の名作ドラマを生み出した早坂暁は、昭和4（1929）年にその愛媛の温泉郡北条町（現松山市北条）の遍路道に面した場所で生まれた。当時、生家は一族でその頃の百貨店の役割を担う勸商場（かんしょうば）を営み、子どもの頃から早坂にとってお遍路に触れることが日常だった。

旧制松山高等学校（現愛媛大学）

を卒業後、

東京大学医学部に合格するが、医学に興味をわかず、日本大学芸術学部に進む。

この決断が、



勸商場のある辻には「花へんろ」の碑が建つ。

大学卒業後は新聞社を経て、いけばな評論家として活動、ドキュメンタリーを中心に放送作家の道を選び、テレビや映画の世界に入っていく。早坂の作風には、巧みなストーリーメイクとともに、いつも庶民の視線がある。日常を懸命に生きるふつうの人々に対するやさしくあたたかい思いがある。

後にテレビドラマ、映画、演劇の脚本などで総数1000本以上の作品を手掛け、日本のドラマ界を牽引した早坂の大きな分岐点になったようだ。また、海軍兵学校に在学中に終戦を迎えるが、被爆した広島に終戦を目にしたことも後の人生に大きな影響を与えている。

穏やかな表情を見せる瀬戸内海沿いのまち北条。遍路道の場所から無二の親友だった昭和の大スター・渥美清とともに訪ねた沖合の鹿島など、早坂の原点となった場所を回ろう。地元の人たちに聞くエピソードを拾うたび、ふるさとへの愛、地元の子どもたちへの愛を感じることもだろう。



早坂暁と伊予北条

【愛媛県】

早坂を偲びながら、「花へんろ橋」を渡る。

早坂の体験をもとにしたNHKのテレビドラマシリーズ「花へんろ」は代表作になった。生家の近くに架かる橋は、地元の小学生により「花へんろ橋」と名付けられた。



北条のまちと沖の鹿島をつなぐ。

港まち北条を散策すると鹿島神社の御旅所がある。また、渡船場近くにはひときわ目立つ大鳥居が建つ。これは、沖合の鹿島にある鹿島神社の鳥居で、鳥居越しに鹿島を望み、まちと島がひとつにつながっている。



鹿島公園渡船
松山市北条辻1605 ☎089-992-1375、7:00～21:00、P有
鹿島には大鹿の乗った船で、片道約3分で渡れる。周遊船も運航している。

海に浮かぶ旅館から北条のまちを眺める。



鹿島にある旅館は北条のまちにある太田屋旅館の鹿島店。早坂は座敷から名物の鯛めしを味わいながら、ゆったりと海越しのまちを眺めていたという。

太田屋旅館鹿島店
松山市北条辻1596-3 ☎089-993-0012
※4月下旬から10月末まで営業

親友・渥美清との友情の碑が並ぶ。



「あつみちゃん」「ギョウさん」と互いを呼び合ったふたりは、何度も鹿島に足を運んだ。船着き場近くにはふたりの句碑が建つ。手前が渥美、奥が早坂。



周囲約1.5キロ。歴史と自然の宝庫、鹿島を回ろう。



島内には鹿島神社をはじめ、見どころが豊富だ。展望台からは瀬戸の海が広がり、夫婦岩も望める。島内に生息するキュウシュウヅカを保護している。ひと息つくなら、カフェもある。

北条に寄ったら、これは外せない。必食の「北条鯛めし」。

愛媛では、切り身の鯛に出汁と溶き玉子で食べる宇和地方的鯛めしも有名だが、当地の「北条鯛めし」は、豪快にまるごと一匹を釜に入れ、そのうま味を生かして出汁昆布だけで炊き上げる。神功皇后が朝鮮出陣で、鹿島に立ち寄った際に献上したとの伝統を持つ郷土料理で、これを目当てに遠方から訪ねる人も多い。早坂も大好物。



太田屋旅館北条店
松山市北条774 ☎089-993-0021
水休※11月上旬から4月中旬まで営業
◎窯炊きの北条鯛めしは要予約



早坂 暁 (はやさか あきら)

昭和4(1929)年～平成29(2017)年

本名は富田祥資(よしすけ)。脚本家、小説家として人情味豊かな数々の名作を生み出す。故郷の松山を舞台にした作品も多い。

松山にある市立図書館

早坂作品を閲覧できる。地元の北条図書館では故郷に思いを寄せる早坂のエッセイなども残る。旅に出かける前には、企画展の予定なども事前にチェックしておきたい。



松山市立北条図書館
松山市河野別府941文化の森公園内
☎089-993-2281、9:30～18:00、
月休(祝日は開館)、P有



松山市立中央図書館
松山市湊町7-5
松山市総合コミュニティセンター内
☎089-943-8008、9:30～20:00、
月休(祝日は開館)

読みたい一冊

やさしさの中にある現実に対する静かな怒りなど、人間・早坂の魅力に触れるエッセイ集。みずき書林。



ひと休みトーク

Tabi no Bookmark

「あなたたちに伝えたいこと」

早坂は、地元の北条北中学校に対して、1000文字にもなるメッセージを寄せている。戦争体験が風化し、さらに自殺や虐待が多くなる世の中に対し、平和への祈りや生きる尊さを託している。故郷を愛し、次代を担う子どもたちに向けた「最期」のメッセージとなった。

「あなたたちの前には未来と大きな可能性があります。(略)

ひとりひとり、何をしたい人間になるか、何ができる人間になるかを考えて、これからの人生を歩んでほしいと思います。」と結んでいる。



懐かし、美味し。ずっと愛され続ける味がある。



えびめしや万成店
岡山市北区万成西町2-53 ☎086-251-6221
11:00~22:00 P有

「えびめし」

●岡山市【岡山県】

いまや岡山ソウルフードの顔となった「えびめし」は、東京の有名料理店で修行した創業者が、50数年前に岡山に持ち帰り、「えびめしや」を起こし定着させた。

炒めたえびを秘伝のタレで味付け、錦糸卵をトッピング。刺激的な見た目ほど辛くはない。スパイシーな味にヤミツキだ。



「バターケーキ」

●広島市【広島県】

見た目はホール状のカステラのよう。口にすると懐かしい香りとやさしい甘さが広がる。完売すれば、お店が閉まるので、早めにぜひ。



長崎堂
広島市中区中町3-24
☎082-247-2618
9:00~15:30(日祝休)

「豆玉」

●徳島市【徳島県】

徳島のお好み焼き「豆玉」の主役は、甘く煮込んだ金時豆。生地にごく切りキャベツをどんと乗せ、玉子を落とし、その上に豆をまく。かつて徳島では塩業が盛んだったので、かえって甘党が多く、何かと金時豆を使ったとか。ふわとろ生地と豆の食感、酸味のあるソースと甘さのマッチ。「はやしのお好み焼き」は地元の名店だ。



はやしのお好み焼き
徳島市南内町1-30-1
☎088-623-7120
11:00~20:00(日休)P有



持ち帰りもできますよ！

夕方ごろは注文が殺到し、フル稼働の店主の林さん

ソウルフード

ひと休みトーク Tabi no Bookmark

子どものころに食べた
忘れられないあの味この味。
各地のソウルフードを楽しもう。



「ぼうしパン」

●高知市【高知県】
帽子のつば部分はカリッ、まん中はフワッ。昭和30年ころに生まれたぼうしパン発祥の店が「リンベル」だ。スタンダード以外にクリームぼうしや季節に合わせたぼうしパンがある。イートインも併設。



リンベル
高知市永国寺町1-43
☎088-822-0678
7:00~18:00
(日休、祝日未定)P有

「おいりソフト」

●高松市など【香川県】
「心まるく、まめまめしく働く」の意味を持ち、香川県では古くから婚礼の引き出ものにされるおいりをソフトにトッピング。おいしくキュートで縁起もいい。



ちよつとカフェ
高松市サンポート2-1
マリタイムプラザ高松1F
☎087-825-5256
10:00~21:00(不定休)



「もぶる」とは当地の方言で「混ぜる」の意味。祝い事や来客の際に出される伝統食でいわゆるちらし寿司。瀬戸内の小魚で出汁を取り、甘めの合わせ酢で寿司飯をつくり、新鮮な旬の魚介をもぶる。いまは「松山鮮」もいわれる。正岡子規や夏目漱石も好物だったという。出汁のうま味と新鮮な素材を味わう。「すし丸本店」がおすすすめだ。

「もぶりめし」

●松山市【愛媛県】

カツオ料理など高知は名物の宝庫だが「チキン南蛮」もそのひとつ。一般的には発祥の宮崎県と同じく鶏ムネ肉をタルタルソースで味わうが、当地はモモ肉をトマトケチャップとマヨネーズをブレンドしたオーロラソースで食べる。「鳥心」はだれもが知る鶏の専門店。かなりのデカさだが、やわらかジューシーだから完食できる。



鳥心
高知市南川添15-3
☎088-883-8501
11:00~14:00(LO.13:45)、
17:30~22:00(LO.21:30)
(定休無し)P有

「チキン南蛮」

ナンパン



神戸の庶民派グルメの大定番！
「そばめし」
●神戸市【兵庫県】
昭和30年ごろ、冷えた弁当飯をお好み焼き屋に持参した客がさつと食べられるように頼んだ裏メニューが始まり。具には、すじ肉とこんにやくを甘辛に煮込んだぼっかけが定番。ガスタンクが並んだ地元のかつての名物通りを店名にした「長田タンク筋」は、こだわり満載の店だ。

長田タンク筋
神戸市中央区三宮町1-8.1さんプラザB1F
☎078-962-6868
11:00~22:30(火休)

名物のぼっかけ！
そばめしをぜひ！



週刊マンガ誌に「鉄板焼き師」として登場した登島さん

「フィッシュカツ」

●徳島市【徳島県】

地元で「カツ」はコレ。魚のすり身にカレー粉などを付け、フライにする。徳島東部は漁業が盛んで蒲鉾店も多かったが、徳島市でこの店の先々代が昭和28年に考案した。おかず、スナック、おやつに気軽に食べられる。



池添かまぼこ店
徳島市幸町3-100
☎088-622-8255
9:00~17:00
(日祝休)



牛の稀少部位の「コウネモ」
広島ならではです。



五工門胡町本店
広島市中区胡町3-14アーバン胡館
☎082-249-8089
平日/17:00~2:30
日祝/11:30~14:00、
17:00~23:30

キャベツたっぷりの広島のお好みは軽くてヘルシーと語る店長の倉増さん

「うにホーレン」

●広島市【広島県】

ウニ？焼く？…ほう、美味しい！
生で出せなくなったウニを何とかしようと地元寿司店が始めて名物になった。ホウレンソウをバターで炒め、ウニを絡めて出すだけだがシンプルで美味しい。お好み焼きといっしょに旅の酒をいい具合に進めてくれる。鉄板焼きの「五工門」は市内中心部に数店を構える人気店。



「骨付鳥」

●高松市【香川県】

讃岐うどんもいけれど、香川でソウルな美味さどがたっぷり満足感を味わいたいなら「骨付鳥」がイチ押しだ。昭和27年に丸亀で開業した「一鶴」の創業者が考案し、いまや当地を代表する名物になった。



一鶴 高松店
高松市鍛冶屋町4-11 ☎087-823-3711
平日/17:00~23:00 LO22:30、
主日祝/11:00~23:00 LO22:30、(火休)



愛と勇気が育ったまち

やなせたかしのルーツを求め、少年時代を過ごしたふたつのまちへ。

高知平野の北東に位置し、豊かな水量の物部川に沿う香美市は、自然あふれるまちだ。マルチアーティスト、やなせたかしの少年時代は、この地ではじまり、隣まちの南国市で育まれた。後に誕生したアンパンマンの原点がここにある。

やなせが生まれたのは大正8(1919)年。父の急死で、両親の故郷だった高知の縁故を頼り、香美郡在所村(現香美市香北町)に、母、弟と移り住む。後に南国市で開業医をしていた伯父の養子となり少年期を過ごす。そのころ絵を描く楽しさを覚え、懸賞漫画や作文

に応募し入選している。後に東京高等工芸学校(現千葉大学)の図案科に進学、卒業後は宣伝関係の職に就くが、徴兵され、中国に出兵し終戦を迎える。帰国後は高知新聞社の記者を経て上京、三越百貨店の宣伝部に籍を置く。そのころから本格的に漫画家としての独立を目指すようになり、仕事の合間を縫っては新聞や雑誌に盛んに投稿している。



香美市のまちの図書館はやなせの寄贈図書もある。



の時代で、やなせの作品には日が当たらず、来る仕事はすべて引き受けたという。そのため舞台美術の制作、放送作家、歌の作詞、テレビの漫画学校の講師など、あらゆるジャンルの仕事をこなし、「困ったときのやなせさん」といわれ、幾つもの才能を器用に活かしていたようだ。やなせの詩に、いずみたくが曲をつけた『手のひらを太陽に』は名作だ。



JR「土佐山田」駅前の香美市いんぷおめーしょん。ゆかりの地もガイドしてくれる。

昭和40年代は多数のラジオドラマを書いたが、そのひとつである『やさしいライオン』で注目を集め、後に絵本となった。いまなお、やなせの代表作として人気を誇る。そして、昭和48(1973)年に「あんぱんまん」が誕生する。54歳での大ブレイクになった。その後、カタカナの「アンパンマン」に変え、愛と勇気の正義の主人公は、みんなのヒーローになっていく。アンパンマンミュージアムを起点にやなせの魅力を探りに行こう。ふたつのまちのアチコチに、少年時代のエピソードとともに、やさしくあたたかい、やなせのメッセージが残っている。



やさしいライオンとアンパンマン。

小学生当時、自宅前にあった石材店の手違いでライオン像がやなせ自宅に運ばれた。それが出世作『やさしいライオン』のアイデアになり、アンパンマン誕生のきっかけにもなった。その像はやなせが通った後免野田小学校に移され、記念碑が建っている。やなせは「ライオンがアンパンマンの生みの親の親」と語っている。

南国市立後免野田小学校
南国市下野田276

のどかな田園風景に包まれた やなせたかし朴ノ木(ほおのき)公園。



実家跡を墓地公園として整備、墓と直筆の詩碑がある。アンパンマンやばいきんまんらに見守られ、やなせは静かに眠っている。アンパンマンミュージアムから近い。

やなせたかし朴ノ木公園 香美市香北町朴ノ木405

ゆったりと自然に身を委ねる 湖畔のひと時。

物部川のダム湖を臨む湖畔に、ドライブの途中に寄りた日帰り温泉がある。湖を眺めながら、淡いウグイス色の天然にこり湯をかけ流して楽しめる。自然に包まれる贅沢な時間が過ごせる。



湖畔遊
香美市香北町有瀬100
☎0887-59-4777. 9:00~21:00
(※温泉は12:00~). 火水休、P有



やなせの実家があった場所にある「やなせたかし朴ノ木公園」。

神秘の世界を 体験する龍河洞。

日本3大鍾乳洞のひとつに数えられ、国の天然記念物・史跡に指定された人気のスポット。総延長約4キロの中に多彩な体験コースがある。1億7500万の歳月で形成された神秘の世界を体験できる。



龍河洞
香美市土佐山田町 逆川1424
☎0887-53-2144.
8:30~17:00
(12月~2月は16:30まで)、P有



土佐のうまいものとお土産探しにひと休み。

高知各地の銘菓をはじめ、名物、名酒が揃うほか、カフェレストランでは坂本龍馬の大好物だったという軍鶏(じゃも)を使ったシャモ南蛮丼や釜揚げちりめん丼、鯉のタタキなど、高知名物が食べられる。ドライブ休憩にはぴったりの場所だ。オトクなモーニングバイキングも人気。



道の駅南国風良里(ふらり)
南国市左右山102-1
☎088-880-8112
8:00~16:00(土日祝は17:00まで)
火休※レストラン、P有

やなせたかし

大正8(1919)年~平成25(2013)年

本名は柳瀬高。『アンパンマン』の生みの親。漫画家、絵本作家、放送作家、作詞家などマルチな才能を発揮した。

香美市立やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム



仕掛けがいっぱいの館内ではアンパンマンの世界を楽しめる。やなせたかしギャラリーでは貴重な絵本原画を展示している。ジオラマのアンパンマンワールドや野外展示もある。



香美市香北町美良布1224-2
☎0887-59-2300. 9:30~16:30. P有

「詩とメルヘン」は もうひとつのライフワーク

隣接する「詩とメルヘン絵本館」にも、やなせたかしの魅力がいっぱいです。ぜひ立ち寄ってください。事務局長 仙波 美由記さん



読みたい一冊

波乱万丈の人生を明るくユーモアたっぷりに綴ったやなせたかしの自叙伝。アンパンマンを通して世間に発表する「遺書」。岩波書店。



ひと休みトーク

Tabi no Bookmark

後免町駅は「ありがとう駅」。

土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の「後免町駅」は、やなせの命名で「ありがとう駅」の愛称で親しまれ、やなせが描いた「ごめんまちこさん」がいる。また、JRに接続した始発の「後免駅」には「ごめんえきお君」がいる。20全駅のそれぞれキャラクターがいて楽しい。



土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線 後免町駅
南国市大そね甲1212-1

天災は忘れたころに



寺田寅彦と高知

[高知県]

「なぜだろう」。いつも寺田は不思議と向き合った。

日本は世界有数の火山列島、地震国だ。近年は全国各地で大規模地震が発生し、併せて大型台風や豪雨も頻発している。メガ台風の襲来、南海トラフ地震なども迫るといわれ、こうした自然災害から国を守るため、より高度な科学の力がいっそう求められる時代となった。

太平洋に面し、しばしば台風の直撃を受け

る高知県の防災意識はかなり高い。地球物理学の権威、寺田寅彦が気象・地震・海洋などの研究にかけた情熱は、このふるさと高知の存在を抜きにはできないだろう。

明治11(1878)年、東京に生まれた寺田は、幼少期に元々高知の土族だった父の故郷に移る。高知城に近い江ノ口に広い敷地を構え、100坪を超えた邸宅は、現在は寺田寅彦記念館となり公開されている。ピアノを置いたり、離れに勉強部屋をついたり、ここでは当時、父親の利正が長男に注いだ溺愛

ぶりがよくわかる。

地元の江ノ口小学校から、名門・高知県立尋常中学校(現高知追手前高等学校)に入学



いつも学生らに問いかけた言葉が刻まれる。

する。明治29(1896)年に、熊本第五高等学校に進むが、ここで出会った物理教師の田丸卓郎と英語教師の夏目漱石から、大きな影響を受け、科学と文学の興味を一気に目覚めさせる。その後、東京帝国大学(現東京大学)に進み、首席で卒業。大学に残ってからは、海洋学、地震学などをはじめとする研究活動に精力を傾ける。また同時に、漱石に認められた文才は、鋭い視点にユーモアを交えた多くの随筆を生んでいる。

寺田寅彦記念館のある江ノ口から、青年期を過ごした追手筋から高知城周辺のゆかりの地を回ろう。寺田が学生たちを前に「ねえ君。ふしぎだと思いませんか」と問いかけた言葉は、このまちで過ごした多感な時代が出发点だ。ドライブの最後は桂浜まで走ろう。雄大な太平洋から届く潮騒を聞きながら、地球の未来を少しばかり考える旅になるだろう。

少年時代の遊び場だった高知城。

高知城は江戸時代初頭の慶長年間に山内一豊が築いた名城。小中学校時代の寺田には、家から近くの楽しい遊び場で、チョウやトンボを追いかけ、木の実を拾っては食べたという。城西公園の側には「花物語」の中にある「昼顔」の文学碑がある。

高知城
高知市丸の内1-2-1 ☎088-824-5701、9:00~17:00、P有



オーテピア
高知みらい科学館、高知図書館、高知声と点字の図書館が一体になった総合文化施設。
高知市追手筋2-1-1
高知みらい科学館 ☎088-823-7767、9:00~18:00 / 高知図書館 ☎088-823-4946、9:00~20:00 / 高知声と点字の図書館 ☎088-823-9488、9:00~20:00

オーテピアの前に建つ寺田の像は、追手筋をはさんで母校を見上げている。

江ノ口川沿いに佇む寺田寅彦旧邸跡。



高知城の北の外堀を兼ねた江ノ口川のほとりに、寺田が19歳まで過ごした邸宅を復元している。石積み塙に囲まれた広い敷地内には立派な主屋のほか、離れの勉強部屋や茶室まである。読書机やピアノなど、当時の暮らしがわかる。

寺田寅彦記念館(旧邸跡)
高知市小津町4-5 ☎088-832-7277(高知市教育委員会民権文化財課)、P有

父の愛が込められた小津神社。



紀州熊野三社権現那智大社を本社にする由緒を持ち、厄除け、病氣平癒などにご利益がある。病気がちの幼い寺田のため、父の利正は石灯籠や石橋を奉納する。

小津神社 高知市幸町9-1 ☎088-873-6602

さまざまな思いが交錯する名勝・桂浜。

子どもの頃に泳いだ場所、先立たれた最初の妻を思う場所。随筆「夕風と夕風」「涼味数題」などに登場する。

桂浜公園
高知市浦戸779 ☎088-841-4140(駐車場)



寺田家の墓所は山の中にある。住宅地の中の小さな案内板を手掛かりに山道に入る。両親と妻たちとともに5基の墓がある。旧邸でガイドマップを手にしてから行こう。
寺田家墓所 高知市東久万



美味しいコーヒーは、ドライブ疲れにも効果あり!

寺田のコーヒー好きは有名。随筆「コーヒー哲学序説」には「コーヒーの効果は官能を鋭敏にし洞察と認識を透明にする点でいくらか哲学に似ている」とまで書いている。オーテピア近くのこの店は、バリスタがフレンチプレス抽出で淹れる美味しいコーヒーを楽しめる。ゆったりとしたテーブル席もある。テイクアウトもできる。

キリグコーヒー 高知市追手筋1-9-16第二森ビル1F北 ☎088-855-9090、10:00~18:00



寺田寅彦(てらだ とらひこ)

明治11(1878)年~昭和10(1935)年

本名同じ。東京生まれ。幼少期に高知に移り、青春時代を過ごす。物理学者。俳人、随筆家としても才能を発揮する。数々の名言が残る。

高知県立文学館



ゆかりの作家たちを「自由民権運動と文学」「反骨の大家文学」「現代の文学」などのテーマ毎に紹介。寺田寅彦記念室を併設する。

高知市丸の内1-1-20
☎088-822-0231、9:00~17:00、P近隣

「随筆の世界に、新しい分野を拓きました」

随筆の中には、新しい発見に興味を抱かせる科学者らしい観察眼や分析力が発揮されています。

主任学芸員 川島 禎子さん



読みたい一冊

表題作ほか、関東大震災の体験を綴った「震災日記より」「流言蜚語」など地震、津波、火災、噴火などの考察、エッセイを収録。講談社学術文庫。



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

「天災は忘れたころにやってくる」



寺田寅彦記念館の石垣にある原文は「天災は忘れられた頃来る」。そのほか、現代文に要約して少し紹介する。

「科学者は自然を恋人としなければならない。自然はその恋人にだけ真心を打ちあける」「心の窓はいつもできるだけたくさん、できるだけ広く開けておきたい」「最後の一步は、実はそれまでの千万歩より何倍も難しい」「健康な人は病気になる心配があるが、病人には回復する楽しみがある」。どれもなるほどだ。

井伏 鱒二 (いぶせ ますじ)

明治31(1898)年～平成5(1993)年

本名は井伏満壽二(いぶしますじ)。「山椒魚」「黒い雨」で知られる大正、昭和を代表する小説家。鱒二と名乗るほどの無類の釣好きでも有名。

ふくやま文学館



福山市と近隣市町村ゆかりの文学者を紹介。中心展示の「井伏鱒二の世界」は創作活動をたどる。趣味人であった井伏の日常も展示。福山市丸之内1丁目9-9 ☎084-932-7010、9:30～17:00、月休、P有

「井伏鱒二の世界に触れてください」

時代ごとに創作された約30作品の展示を通して、井伏の生涯をわかりやすく解説しています。

館長 岩崎 文人さん



読みたい一冊

原爆投下で広島に降った黒い雨。20世紀最大の悲劇を静かな語り口で描いた井伏の記念碑的作品。後世に伝えたい不朽の名作。新潮社。



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

仙酔島ではゆったり、ゆっくり、名物湯に癒されよう。

島内には日帰り入浴できるふたつのホテルがある。島内を散策した後は、お湯に浸かって元気をチャージしよう。



海水を汲み上げ沸かしたミネラルたっぷりの「潮風呂」に、よもぎ風呂、展望貸切風呂などがある。
国民宿舎仙酔島
福山市鞆町後地字田ノ浦3373-2 ☎084-970-5050



焚き上げ洞窟蒸し風呂の「江戸風呂」や流れるように汗が吹き出す風呂、瀬戸内を望む露天風呂もある。
人生感が変わる宿「ここから」
福山市鞆町後地字3371 ☎084-982-2111



“潮待ち風待ち”の港まち、輛の浦。

古くは万葉集にも詠われた景勝の地。常夜燈をシンボルに、江戸時代の商家が残るレトロなまち並みが人気だ。晩年の作品『輛ノ津茶会記』は、ここでの茶会で秀吉などを肴に戦国武将や僧侶らが気ままな噂話を繰り上げた歴史ファンタジーだ。
常夜燈 福山市鞆町843-1

パワースポット・仙酔島を探索しよう。

“仙人も酔うほど美しい島”とされ、自然の神秘とエネルギーを体感できる。パワースポット巡りの入口には海食門がある。島内をめぐるハイキングコースもある。

市営渡船場
福山市鞆町後地623-5
☎084-982-2115
7:10～21:30、P隣接



坂本龍馬ゆかりの船を模した「平成いろは丸」に乗り、5分で渡れる。



“黒い雨”が降ったまち、広島へ。

原爆で被災した主人公の苦悩を綴った『黒い雨』は、井伏の最高傑作とされる。ドライブの最後は、ここまで足を運びたい。

世界遺産・原爆ドーム
広島市中区大手町1-10



加茂町の旧家で味わう贅沢なひと時。

井伏が育った加茂町から福山市内に向かう道沿いに風格ある佇まいの屋敷がある。元々は加茂町の名士だった窪田次郎の生家を作り酒屋の母屋として移築したもので、いまは食事処になっている。往時の雰囲気漂うテーブル席の座敷で食べる自慢の膳はリーズナブルで、昼どきのひと休みにぴったりだ。



旨匠 仁助(ししょうにすけ)
福山市加茂町中野555
☎084-972-3438
11:00～21:00、不定休、P有

対潮楼からの絶景にしばし酔いたい。

福禅寺にある客殿「対潮楼(たいちょうろう)」は江戸時代に創建されたもので、座敷からの眺望が素晴らしい。朝鮮通信使によって「日東第一形勝(朝鮮より東で一番美しい景勝地)」と絶賛されたという。



対潮楼
福山市鞆町2
☎084-982-2705、
8:00～17:00、P近隣



輛の浦の「対潮楼(たいちょうろう)」から仙酔島(せんすいじま)を望む。手前は弁天島。

ふるさとのまちには、別れと旅立ちの岐路があった。だれにでも人生の岐路になる節目や別れがある。中国唐代の于武陵(うぶりよう)が書いた漢詩「勸酒」は、友と飲み交わす酒を題材に人生には別れはつきものだと言っている。解釈はさまざまだが、その最後の二節を「さよならだけが人生だ」と訳したのが、飄々とした風貌と洒落な作風で知られる井伏鱒二だ。聞き覚えがある人も多いだろう。

出合いがあれば、別れは必ず訪れる。居心地いい場所に留まるより、別れを糧に次の一歩を踏み出す。それが生きる意味ということだろうか。幾つもの悲しい別れを経た井伏の人生にも重なる。

井伏は明治31(1898)年に広島市の安那郡加茂村(現福山市加茂町)に、代々地主を継ぐ旧家に生まれた。し



四川沿いに建つ井伏鱒二文学碑。

川沿いに建つ井伏鱒二文学碑。卒業後は画家を目指し京都・奈良に3カ月のスケッチ旅行、日本画家の橋本関雪に弟子入りを試みるが断られ、文学へ道を変え早稲田大学に編入、文学部に進むがここでは教授との一悶着で退学する。

大正12(1923)年に発表した『幽閉』(後に『山椒魚』)で注目を集め、昭和13(1938)年の『ジョン万次郎漂流記』が直木賞を受賞、人気作家の地位を築く。昭和41(1966)年には最高傑作といわれる『黒い雨』を発表する。

生家は親族が継ぎ、母校は移転。少年期を過ごした加茂町には、井伏の足跡を残すものは多くない。のどかな生家近くの四川沿いに建つ井伏鱒二文学碑には、冒頭の漢詩の井伏の訳文が刻まれる。



福山城は祖父が井伏を連れ出した思い出の場所。

元和8(1622)年に徳川家の家臣、水野勝成が築き、福山は備後10万石の城下町として栄えた。重要文化財に指定される伏見櫓、筋鉄(すじがね)御門に、復元された天守閣は福山城博物館になっている。

福山市立福山城博物館
福山市丸之内1-8
☎084-922-2117、9:00～17:00、月休

はじめて汽車に乗り訪れた福山城、海釣りを初体験した輛の浦、祖父の愛にあふれた思い出の地を回ろう。

波音を聞きながら執筆したであろう輛の浦は、晩年の『輛ノ津茶会記』の舞台にもなっている。郷土に深く根差した作品が多い井伏の人生をゆつくり辿りたい。

さよならだけが人生だ



井伏 鱒二と福山

いぶせ ますじ

〔広島県〕



徳島中央公園のバラ園付近に建てられた記念碑には、親友だった江戸川乱歩による賛辞が刻まれる。



子ども時代の思い出が残る四所(しよ)神社。道路向かいに碑が残る。
四所神社
徳島市福島2-3-34

海野十三 (うんのじゅうざ)

明治30(1897)年~昭和24(1949)年

本名は佐野昌一(さのしょういち)。日本SFの父。奇抜な発想の作品は後世に大きな影響を与えた。未発表作も多く、いまだ謎のベールに包まれる。

徳島県立文学書道館



海野が戦中に綴った日記や江戸川乱歩が寄せた直筆の手紙など、貴重な資料を展示する。海野の足跡を垣間見られる。

徳島市中前川町2-22-1
☎088-625-7485
9:30~17:00、月休、P有

読みたい一冊

戦争中にはラジオ番組にもなり、人気を集めた海野の短編を集めて文庫本化したもの。このは文庫。徳島文化振興財団・徳島県立文学書道館発行。



徳島中央公園
徳島市徳島町城内 ☎088-656-2525
(※徳島城博物館) 9:30~17:00、月休、P有

公園内には徳島城博物館、表御殿庭園、バラ園などがある。

海野はいまだ全貌を見せていない。夢のまた夢だった宇宙旅行が現実に近い。いまから一世紀も前に、そんな宇宙や未来の世界を斬新な着想の空想科学小説にした作家がいる。日本SFの父と呼ばれる海野十三は、明治30(1897)年に徳島市徳島本町に代々徳島藩の御殿医だった佐野家に生まれ、幼いころは開業医だった安宅町の祖父の家で育てられる。小学3年生で神戸に引っ越し、後に早稲田大学理工科で電気工学を専攻、



藩主蜂須賀公の城跡。

卒業後は通信省(現日本郵政・日本電信電話)で無線の研究に就く。そのころから独創的な作品を多彩なペンネームで次々に発表する。海野十三の名前も受験番号が13番だったとか、好きだった麻雀は「運が十さ」と答えたとか、縁のある数字だったらしい。昭和7(1932)年に初の小説集『電気風呂の怪死事件』を刊行、『深夜の市長』『地球盗難』『火星兵団』『海底大陸』などタイトルから引込まれる作品ばかりだ。多作家で240の著作があるという海野。いまだ出版されないものも数多く、友人の作家横溝正史が一文を見たという幻の作品『しゃっくりをする蝙蝠(こうもり)』の行方も謎だ。急速に進化した現代、海野の目にはどう映るだろうか。

もうひとつのご当地名物「徳島鯛塩ラーメン」。

醤油とんこつ系で、すきやきのような感覚の徳島ラーメンが有名だが、こちらはその対極にある。細麺に鯛の骨で取ったコクのある出汁にあっさりした塩がベストマッチ。パリッと揚げた鯛皮もいい。残ったスープにご飯を入れよう。居酒屋のメのラーメンとして人気だ。



堂の浦駅前店
徳島市寺島本町西1-45-1
☎088-652-5112、12:00~(売切れ終了)、18:00~23:00、不定休



●海野十三写真は海野十三の会提供

謎多き日本のSFの父



海野十三と徳島

[徳島県]

柴田 錬三郎 (しばた れんざぶろう)

大正6(1917)年~昭和53(1978)年

本名同じ(後に嫡養子で斎藤姓になる)。剣豪小説で人気作家になる。随筆家、文化タレントとしても活躍。

吉備路文学館



岡山の備前・備中・美作から広島東部の備後までの文学者たちの業績を紹介している。岡山市北区南方3-5-35、☎086-223-7411 9:30~17:00、月休、P有 ※地図P23参照

「吉備路文学の魅力を一堂に」

吉備路には数多くの文学者がいます。当館では、柴田のほか二百数十名の資料を収蔵しています。

館長 明石 英嗣さん



読みたい一冊

生い立ちから青春期、入隊時代、東京での奮闘までの足取りと柴田文学を解説する。岡山文庫。日本文芸出版。



岡山ブルーライン片上大橋辺りから鶴海(つるみ)を望む。

”シバレン”の愛称で一世を風靡。昭和30年代、柴田錬三郎が生んだ「眠狂四郎」は従来の剣豪イメージを覆したニューヒーローだった。シバレンの愛称で親しまれた柴田は、大正6(1917)年に岡山県邑久郡鶴山村(現備前市鶴海)に生まれた。複雑に入り組み、鶴の嘴のような入り江があるこの地で幼少期を送り、慶応義塾大学医学部予科に入るが、半年で文学部予科へ移る。卒業後、銀行勤め、出版関係の仕事、新聞社、雑誌の編集長を経て、本格的に作家活動に入る。昭和27(1952)年に『イエスの裔』で直木賞を受賞。次の『眠狂四郎』シリーズで剣豪小説の一大ブームを巻き起こす。



赤煙突が迎える伊部。

地元に残るゆかりを訪ねた後は、備前焼のまち伊部(いんべ)で情緒あるまち並みを楽しみたい。

す。映画、テレビドラマで見る哀愁漂うニヒルな剣士の「円月殺法」にだれもがドキドキさせられた。明治天皇や魯山人ら文人墨客が立ち寄り、超売れっ子作家の柴田も逗留した地元の老舗荒木旅館では、書き下ろした原稿を近くの郵便局から東京に送っていたという。地元に残るゆかりを訪ねた後は、備前焼のまち伊部(いんべ)で情緒あるまち並みを楽しみたい。



柴田が泊まった部屋は当時のまま。

備前焼のまち・伊部(いんべ)。



備前焼の里の氏神とされる天津(あまつ)神社は神門や狛犬も備前焼。まち歩きの出点になるJR「伊部駅」内の喫茶UDOは備前焼のカップで美味しいコーヒーが飲める。

天津神社 備前市伊部629
喫茶UDO 備前市伊部(駅構内)
☎0869-93-4701、10:00~17:00、不定休、P有



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

日本最古の庶民学校、儒学の殿堂。



寛文10(1670)年に備前岡山藩主池田光政が創設した日本最古の庶民学校。儒教の殿堂として古くは頼山陽も来訪、正宗白鳥、三木露風などを輩出。備前焼で賞かれた講堂が歴史を語る。

旧閑谷学校
備前市閑谷784 ☎0869-67-1436、9:00~17:00、P有



柴田家は地元の名家。外から往時を偲びたい。近くの公園には文学碑が建つ。



大女将の光世さんからは、柴田のエピソードが聞ける。左は女将の陽子さん。
あびすや荒木旅館
備前市西片上1280 ☎0869-64-2004 P有



●柴田錬三郎写真は荒木旅館提供

巻き起こった剣豪ブーム

柴田錬三郎と備前

[岡山県]

児童文学の作家たち



一冊の本が幼な心に強さと勇氣、やさしさと温かさを教えた。瀬戸内の児童文学の作家たちを訪ねよう。

未来に羽ばたいた『赤い鳥』



鈴木三重吉と広島

[広島県]

児童文学運動のパイオニア

子どもたちの純粋な心を育みたい。児童文学の新しい扉を開いた鈴木三重吉はその一念だったのだらう。少年時代から盛んに少年雑誌に投稿した鈴木は、当時から高い作文能力の片鱗を見せて、9歳のときに亡くなった母の記憶を辿り、15歳で送った『亡母を慕ふ』は雑誌に掲載されている。

東京帝国大学英文科進学後は、夏目漱石の講義を受け、病で一時期休学した際に短編の『千鳥』、復学後は『山彦』

など抒情作品を書いている。卒業後は教師の職と並行し、創作活動を続けるが、34歳のときの長女誕生を契機に童話雑誌の創刊を構想する。子どもへの愛情、新たなジャンルへの挑戦が気持ちを駆り立てた。こうして、大正7(1918)年に発刊された『赤い鳥』は、森鷗外らの賛同を得て、芥川龍之介や菊池寛らも寄稿し、新たなうねりとなって広がっていく。投稿作品の中から坪田譲治や『ごんぎつね』で有名な新美南吉など児童文学の新たな才能も現れ、『赤い鳥』は大きく羽ばたいていった。

子どもたちの純粋な心を育みたい。児童文学の新しい扉を開いた鈴木三重吉はその一念だったのだらう。少年時代から盛んに少年雑誌に投稿した鈴木は、当時から高い作文能力の片鱗を見せて、9歳のときに亡くなった母の記憶を辿り、15歳で送った『亡母を慕ふ』は雑誌に掲載されている。東京帝国大学英文科進学後は、夏目漱石の講義を受け、病で一時期休学した際に短編の『千鳥』、復学後は『山彦』



広島市こども図書館の庭には記念碑「夢に乗る」がある。広島市こども図書館 広島市中区基町5-83

鈴木三重吉生誕の地は長遠寺。文学と平和を伝える寺として『赤い鳥』の会の事務局としても活動している。無量山長遠寺 広島市中区大手町3-10-6



鈴木三重吉生誕の地はエディオン広島本店前。 ●鈴木三重吉写真は広島市立中央図書館提供



鈴木三重吉の自筆文、『赤い鳥』の題字を刻んだ文学碑は原爆ドームの前、相生橋東詰に建つ。

鈴木三重吉 (すずき みえきち)

明治15(1882)年～昭和11(1936)年

本名同じ。広島市猿楽町(現中区紙屋町)生まれ。日本の児童文学運動の父。『赤い鳥』は不朽の功績を残し、多くの児童文学作家を育てた。

広島市立中央図書館



広島資料室内に、鈴木三重吉から阿川弘之までゆかりの作家たちを紹介する「広島文学資料室」がある。
広島市中区基町3-1 ☎082-222-5542
9:00～19:00(土日は17:00まで)、月休

「鈴木三重吉作品を展示しています」

文学資料室では、『赤い鳥』の展示ほか、貴重な初版作品などをご見覧ください。
学芸員 石田 浩子さん



読みたい一冊

古事記を子どもにもわかるよう楽しく物語風になっている。大正時代に書かれたがいまも色あせない。大人も十分楽しめる。PHP研究所。



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

川から眺める広島のみち。原爆ドームそばの元安棧橋から出航し本川、京橋川、猿猴川など市内を流れる川を回遊しながら、まち並みを観光できるいろいろなコースが楽しめる。

ひろしまリパークルーズ

乗船場所／広島市中区大手町1-9 ☎082-258-3188。水休 ※コースによっては要予約



ふるさとに愛があふれる



坪田譲治と岡山

[岡山県]



JR岡山駅西口には善太と三平の兄弟像「永日抄—二人—」がある。

田園の中、セミを追いかけてたり、川に飛び込み、フナを捕まえたり、そんなふるさとのもちの情景を子どもの視点で描いたのが坪田譲治だ。

島田本町にあった生家はランプ芯を作る工場、島田製織所を営んでいたが、8歳のときに父を亡くし、家業を継いだ兄を手伝いながら母に育てられた。小中学校時代は、大の読書好きで、早稲田大学文科予科へ入学後は、第一線にいた童話作家の小川未明に大きな影響を受ける。卒業後は家業の傍ら、作品を書き続け、鈴木三重吉らの指導を受け、昭和10(1935)年の『お化けの世界』で脚光を浴びる。児童文学

作家としての地位を築くことになった『風の中の子供』で、主人公として登場する善太と三平の兄弟の物語は、厳しい大人の世界の現実に触れながら、それを跳ね返す子どもの天真爛漫さを描いたもので、坪田自身がふるさとのもちで体験したものとなる。

坪田にとって、岡山のまちはずっと父であり、母であり続けた。生家付近には作品に登場する場所が点在する。ふるさとを愛し続けた坪田の足取りを見つめよう。



坪田の母校がある石井学区には「坪田譲治の街」の幟が並ぶ。

フルーツのまちおかやま。

白桃やピオーネなど上質フルーツが一年中、収穫される岡山の魅力を発信するため市内のカフェではオリジナルパフェを提供する。写真は船穂町産マスカット・オブ・アレキサンドリアと総社産白桃のダブルフルーツパフェ。



ANAクラウンプラザホテル岡山/カジュアルダイニングウルバーノ 岡山市北区駅元町15-1 ☎086-898-2268



いまは閑静な住宅地の片隅に、大きなクスノキと生家を記す碑が建っている。左に回れば、『かっぱとドンコツ』に収録された「エヘンの橋」もある。

坪田譲治生家跡 岡山市北区島田本町2

坪田 譲治 (つばた じょうじ)

明治23(1890)年～昭和57(1982)年

本名同じ。小川未明と鈴木三重吉に師事し、ふるさとを舞台にした作品を発表。三重吉没後は『赤い鳥』の理念を継ぎ、『びわの実学校』を創刊する。

岡山市立中央図書館



参考資料コーナーに坪田作品を展示するほか、仕事場を再現する。また玄関前には、善太と三平の兄弟像もある。 岡山市北区二日市町56 ☎086-223-3373、10:00～18:00、月休、P有

「岡山市では坪田を顕彰しています」

岡山市では創作活動の奨励と文化向上を目的にした「坪田譲治文学賞」を制定しています。学芸副専門 監 飯島 章仁さん



◎岡山シティミュージアムでも坪田譲治の展示(不定期)がある。 JR岡山駅西口向かい ☎086-898-3000、10:00～18:00、月休

読みたい一冊

最高傑作といわれ、大人と子どもの垣根を越えて読み継がれる一冊。生きることの尊さを伝える。新潮文庫。



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

桃太郎のまちの発見!

岡山といえば、桃太郎伝説のまち。JR岡山駅東口の桃太郎像を起点にスポットめぐりも楽しい。市内の通りに建つ像、道路の鬼の金棒型のガード、マンホールの蓋にも注目したい。



●坪田譲治写真は岡山市立中央図書館提供

●鈴木三重吉写真は広島市立中央図書館提供

つぎに訪ねたい瀬戸内の文学館ガイド

瀬戸内にはまだまだ魅力あふれる作家たちがいる。つぎはだれに、どのまちに。作家を訪ねるドライブのヒントに各地の文学館を紹介する。

谷崎潤一郎旧邸
倚松庵(いしょうあん)
●神戸市【兵庫県】



大文豪、谷崎潤一郎が一時期住み、夫人の松子とその妹たちや娘とのできごとを描いた『細雪』の舞台となった。庵内には、著作、参考文献などを集めた「谷崎文庫」を併設する。

神戸市東灘区住吉東町1-6-50
☎078-842-0730、10:00～16:00※土日のみ開館

ふるさとの島を愛した作家
壺井栄文学館
●小豆島町【香川県】



女先生と教え子たちの温かい交流を描いた名作『二十四の瞳』で知られる壺井栄の数々の初版本や愛用品を展示する。夫で詩人だった壺井繁治と住んでいた旧居から移した愛用の応接セットや当時のいろいろ部屋も再現する。二十四の瞳映画村に併設される。

小豆郡小豆島町田浦甲936
☎0879-82-5624、9:00～17:00

ふるさとの温もりに触れる
大原富枝文学館
●長岡郡本山町【高知県】



嶺北の山村、美しい吉野川。大原富枝が生まれた本山町は、豊かな温もりにあふれている。展示室では代表作『宛という女』のほか、大原の生涯と作品を資料と映像で紹介し、ゆったりとくつろげる茶室などもある。

長岡郡本山町本山568-2
☎0887-76-2837、9:00～17:00、月休

手塚ワールドの再現
宝塚市立手塚治虫記念館
●宝塚市【兵庫県】



手塚治虫は5歳から24歳まで宝塚で過ごした。「リボンの騎士」の王宮風エントランスを迎えられる館内には、オリジナルアニメなどが上映されるアトムビジョンやさまざまなテーマ展示、アニメ工房などがある。

宝塚市武庫川町7-65
☎0797-81-2970、9:30～17:00、水休

俳句革新運動の旗手
松山市立子規記念博物館
●松山市【愛媛県】



松山市に生まれ、長い闘病生活の中で、俳句・短歌などさまざまな文学革新を成し遂げた正岡子規の足跡を紹介する。「人間正岡子規」をテーマに3つのコーナーに分け、その生涯を多彩な展示物で解説する。

松山市道後公園1-30
☎089-931-5566、9:00～18:00、火休
(11月～4月は9:00～17:00)

フクちゃんのゆかいな世界
横山隆一記念まんが館
●高知市【高知県】



新聞の人気4コマ漫画『フクちゃん』で知られる隆一は、常に少年の心を持ち、ユーモアあふれる人柄で多くの漫画や絵本を手掛け、日本の漫画家として初めて文化功労者となった。隆一の魅力を原画やオブジェ、昭和の風景、鉄道模型コレクションなど楽しい展示で紹介する。

高知市九反田2-1高知市文化プラザかほーと内
☎088-883-5029、9:00～18:00、月休

世界文化遺産を望む文学拠点
姫路文学館
●姫路市【兵庫県】



世界文化遺産・国宝の姫路城を借景に、文学と対話する空間として安藤忠雄設計で開設された播磨地域の文学活動拠点。和辻哲郎、椎名麟三、阿部知二など、地域ゆかりの作家・学者を紹介する北館と司馬遼太郎記念室を持つ南館がある。

姫路市山野井町84
☎079-293-8228、10:00～17:00、月休

マルチな才能に触れる
伊丹十三記念館
●松山市【愛媛県】



映画監督、俳優、エッセイストなど多彩に活躍した伊丹十三の足跡を辿る。映画監督の父、伊丹万作の故郷・松山で伊丹も青春時代を過ごした。常設展示室は名前にちなみ13のコーナーで構成され、伊丹の未知の一面に出会える。趣向をこらしたショップ、入館者専用カフェもある。

松山市東石井1-6-10
☎089-969-1313、10:00～18:00、火休

ことばを紡いだ詩人
中原中也記念館
●山口市【山口県】



珠玉の詩編を後世に残し、30歳の若さで生涯を終えた中も、いまなお日本全国に多くのファンを持つ。その生家跡の一部を利用した記念館では、年数回の展示替えを行い、原稿や資料を通じて中野の生涯、詩業を紹介している。

山口市湯田温泉1-11-21
☎083-932-6430、9:00～18:00
(11月～4月は9:00～17:00)、月・最終火休

坂とネコのまちを気ままに散歩。
昭和レトロなまち並みが残る尾道は、懐かしい香りがする。千光寺公園から尾道水道や瀬戸内の島々を望みながら下る坂道。このまちで生まれた一人の少女は、どんなことを夢見て歩いたのだろうか。
横山美智子は尾道女子高等小学校を卒業後、文学を志して上京。30代終わりに書いたデビュー作『緑の地平線』が新聞の懸賞応募小説に選出、翌年映画化され、一躍注目を浴びる。ご都合主義的な筋立てや富豪令嬢をヒ

ロインにするなど、作風への評価はまちまちだったが、後に54版を重ねてベストセラーになった『嵐の小夜曲(セレナーデ)』は、当時の少女たちを熱狂させる。一方、童話集『よい子強い子』に収録された「くもとちゅうりつぷ」は太平洋戦争中の昭和18(1943)年に製作された貴重な国産アニメ映画の原作となった。
ゆつくりと千光寺公園を散策した後は、生家があった久保町、墓所がある常称寺界隈まで、夢見る少女がかなえたサクセスストーリーに思いを馳せながら足を延そう。



坂道から一步路地に入れば、思いがけない景色に出会う。迷うのも楽しい。

かなえられた夢物語



横山美智子と尾道

[広島県]

横山美智子(よこやまみちこ)

明治28(1895)年～昭和61(1986)年

本名は横山カメコ(旧姓黒田)。少女小説家。ヒット作を次々発表、映画化などで一躍スターダムに駆け上がる。

尾道文学公園



横山美智子をはじめ、林芙美子、志賀直哉など多くの作家たちが尾道を愛した。千光寺山のちようち中腹に位置する文学公園からの眺望も風情がある。公園の後ろにあるのが志賀直哉旧居だ。

小さな可愛いパン屋さん



坂の途中にある一軒家を改造したレトロなお店。メロンパンやクロワッサンが人気だ。
ネコノテパン工場
尾道市東土堂町7-7
☎050-6864-4887
10:00～17:00火水休



平安時代の初頭に開基された由緒を持ち、朱塗り舞台造りの本堂、竜宮造りの鐘楼が山の緑に美しく映える。ここから尾道ゆかりの文人たちを偲ぶ作品の断片が石に刻まれた「文学のこみち」を辿りたい。

千光寺
尾道市東土堂町15-1 ☎0848-23-2310



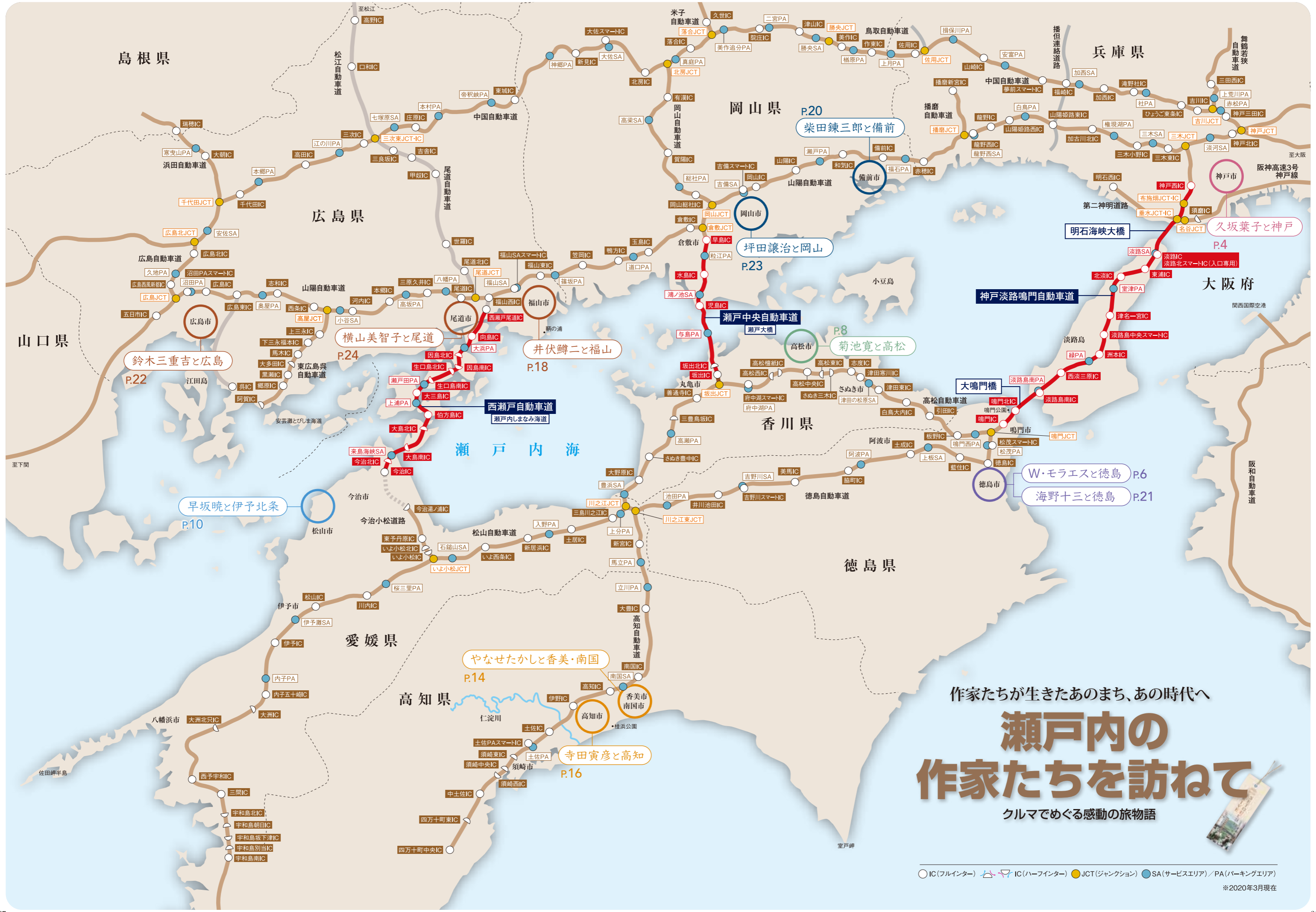
千光寺公園の展望台からは穏やかな尾道水道に寄り添った尾道のまちを一望できる。ロマンティックな気分になれる「恋人の聖地」もある。

千光寺公園頂上展望台
尾道市東土堂町20-2
☎0848-38-9184(尾道市観光課)



鎌倉時代後期に創建されたとされ、室町・江戸時代の遺構が多く残る名刹。横山の墓所がある。常称寺
尾道市西久保町8-3 ☎0848-37-9731





作家たちが生きたあのまち、あの時代へ

瀬戸内の作家たちを訪ねて

クルマでめぐる感動の旅物語

○ IC(フルインター) ● IC(ハーフインター) ● JCT(ジャンクション) ● SA(サービスエリア) / PA(パーキングエリア)
 ※2020年3月現在